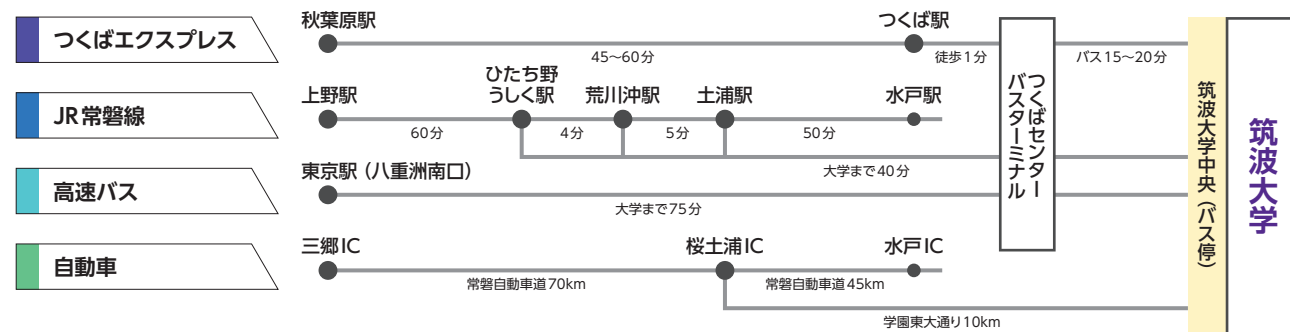




● 筑波大学までの交通



筑波大学入学試験に関するお問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-6007 FAX 029-853-6008



<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

筑波大学人間学群 ウェブサイト



<https://www2.human.tsukuba.ac.jp/gakugun/>

人間学群
School of Human Sciences

入学案内 2026
ADMISSION GUIDE

ADMISSION GUIDE 2026

●教育学類

College of Education

●心理学類

College of Psychology

● 障害科学類

College of Disability Sciences



人間を研究することの意味

21世紀に生まれたみなさんにとって、現在の社会はどのように見えているでしょうか。デジタル・トランスフォーメーション(DX)をはじめとする情報化や機械化が進み、買い物は貨幣を使わずに精算できますし、交通も切符を買うことなく乗車できます。そもそも、ネットショッピングやオンライン通信、VRを使えば、自らが動くことなく買い物や交流、観光も可能です。私たちは機械やロボットが代行することで、危険な業務や単純な作業からの解放や、個人ではできないような計算や問題解決といった、便利な生活を手に入れています。

しかし、それは人間という存在を不要にしかねない危険性を持ち合わせています。買い物客や乗客が来なければ、商店や交通機関は経営が成り立たず、企業も人件費を削減するために機械化をいっそう進め、その結果雇用を控えて失業者が増えるかもしれません。また、メタバース上でアバターが参加して、仕事や勉強、スポーツやゲームをすることも、みなさん自身が経験していることでしょう。人間の暮らしを良くしようと努力していたはずが、人間がいない、見えないことを社会も個人も志向するという、不思議な時代が到来しているのです。

このような世の中において、人間について学び研究することは、これまで以上に重要な役割を担っています。人間の行動や思考のメカニズムを明らかにすることは、こころや感情といった目に見えない部分を解明するだけでなく、実生活やAI・機械に応用するという意味でも価値ある研究です。それとともに、人間どうしが関わり伝えあうことの意義や方法、個人と社会の関係といった、人間のあり方や生きざまを問い続けることも、これからの社会における重要な課題となっています。

人間学群は、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学という歴史を受け継ぎつつ、1975年に第二学群人間学類として設立され、2007年の組織改編を経て現在に至っています。日本の教育学、心理学、障害科学の研究と教育をリードしつつ、人間を科学的に追求し、その本質を究明する人間学群の原点を大切にしながら、みなさんと一緒に50周年という記念すべき節目を迎えたいと思っています。

人間学群長 山田 一夫



目次

Contents

- 1 学群長挨拶
- 2 教育の理念・教育の方針
- 3 学類融合
- 5 つくばの4年間
- 7 在学生にインタビュー
- 9 教育学類
- 13 心理学類
- 17 障害科学類

- 21 海外交流
- 22 大学院
- 23 卒業後の進路
- 25 取得可能な免許・資格
- 26 卒業生からのメッセージ
- 27 教員紹介
- 29 入試情報・オープンキャンパス・施設紹介・Q&A

School of Human Sciences

教育の理念

人間学群は、筑波大学の開学と同時に創設された人間学類(教育学主専攻・心理学主専攻・心身障害学主専攻)の改組により、教育学類・心理学類・障害科学類から構成される学群として発足しました。人間学群では、人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができると人材を養成することを目的としています。

この目的をふまえて、人間について学問領域を融合して多方面から研究を進め、研究職、企業、行政、教育、福祉医療など、これからの共生社会を創造する人材を育てることが、人間学群の責務であると考えています。例えば、学校の先生になろうとしている人には、教育学的な知識・技能だけではなく生徒の心を理解する力や障害のある生徒を理解する力、すなわち、心理学的な知識・技能や障害科学的な知識・技能が必要不可欠です。人間学群の教育システムは、学生が人間について総合的に学ぶことを可能にするシステムとして構成されています。

人間学群の学生は、明るく、快活に学ぶ姿が印象的であると言われる。私たち教職員は、「人間」を学び、そして「人」に学ぶ、真摯な学生を迎え、ともに未来の希望を語ることを大切にしています。

各学類の人材養成目的は、以下の通りです。

●教育学類

人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。

●心理学類

人間のこころと行動に関する幅広い興味や関心を基盤に、人間のこころと行動を科学的・実証的に分析し理解する姿勢及び専門的な知識や技能を身につけ、さらに、これらの学習成果を生かして、実際の問題を主体的かつ創造的に解決する能力を有し、国際的にも通用する知性・人間性・逞しさを備えた人材を育成します。

●障害科学類

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

教育の方針

人間学群では、先達の築いた伝統を真摯にうけとめつつも、新たな時代における国際的、または今日的な課題の解決に貢献する人材の育成に努めています。そのために、特に次の三つの点を重視しています。

第一は、学群コア・カリキュラム(専門基礎科目)です。人間学群の学生は、学類横断型の科目の履修を通じて、基礎的、実際の学びを修めます。たとえば、「人間学」では、これからの新しい社会における人間のあり方や生き様について学問的に追究していきます。また、「キャリアデザイン入門」では、多様な分野で活躍する卒業生を招聘し、毎回現実社会における様々な問題やその解決への姿勢・熱意を伺いながら、自らの将来を展望します。さらに「人間フィールドワーク」では、学外での活動や教員の主宰する研究会への参加を通じて、関心のある分野への実践的な学びを深めます。

第二は、少人数の指導体制による、きめ細かな指導の実現です。人間学群の学生定員は、一学年120名と、筑波大学の中では小規模の組織です。これに対して、幅広い分野にわたる十分な人数の教員が対応しますので、きめ細かな指導を行う環境となっています。加えて、1年生から4年間持ち上がるクラス担任制度により、学生の学修上、あるいは生活上の悩みにも速やかに対応できる体制をとっています。

第三は、学内外の資源を活用した指導の実施です。筑波大学は、教育学、心理学、障害科学に係る学群(学士課程)から大学院までを有する、全国で数少ない大学の一つです。人間学群での学修を博士前期・後期課程へと誘い、一貫したカリキュラムの下で専門性の高度化と学際化の実現を目指しています。また、筑波大学では小・中・高等学校および特別支援学校を擁しています。これらの附属学校は、大学での理論的学修を実践や応用へと架橋する貴重な場であり、附属学校での学習機会を積極的に導入して、教育研究の深化に活かしています。さらに、海外の協定校との交流も積極的に取り組んでいます。例えば、ホーチミン市師範大学(ベトナム)、東北師範大学(中国)、釜山大学(韓国)、モスクワ市立教育大学(ロシア)、嘉義大学(台湾)、オハイオ州立大学(アメリカ)といった大学を訪問して、学生との交流や学校・施設等を視察を通じて学生の視野を広げています。

人間学群の授業では、常に自らの考えを持ち、それを教員や他の学生に明確に伝えることが要求されます。学生が成長するために、教員は支援を惜しみません。それは、人間に対する深い理解と支援を行う専門家であるという責任を、全教員が自覚しているからです。

学類融合

人間学群では「教育学類」「心理学類」「障害科学類」の3学類で連携して教育や研究を行っています。



つくばの4年間

入学から卒業まで4年間のスケジュール

はじめての一人暮らし。
宿舎やアパートでの生活も、
毎日が新鮮!



年間スケジュール

学期の区分(2学期6モジュール制)

※1つのモジュールは、5週の授業日数を確保

●春学期 A・B・Cの3モジュール

●秋学期 A・B・Cの3モジュール

4月 April	春学期開始(4/1～) 入学式(4月初旬) 春Aモジュール(4月上旬～5月下旬)
5月 May	春季スポーツデー(5月中旬) やどかり祭(5月末) 春Bモジュール(5月下旬～7月初旬)
6月 June	教育実習(3・4年次)(5月～11月)
7月 July	春Cモジュール(7月初旬～8月上旬) 大学院入試 (7月～2月 学位プログラムにより異なる)
8月 August	オープンキャンパス(8月) 夏季休業(8月中旬～9月末)
9月 September	秋学期入学式(9月末)
10月 October	秋学期授業開始(10/1～) 秋Aモジュール(10月初旬～11月上旬)
11月 November	雙峰祭(11月上旬) 秋Bモジュール(11月上旬～12月末) 秋季スポーツデー(11月下旬)
12月 December	冬季休業(12月末～1月初旬) 秋Cモジュール(1月初旬～2月中旬)
1月 January	春季休業(2月中旬～3月下旬)
2月 February	卒業式(3月下旬)
3月 March	

Interview 1

やりたいことが
ありすぎるのが楽しい

教育学類 3年

糸岡 来望 さん
Itooka Kurumi

小学校の卒業文集に「将来は先生になる」と書いてからまっしぐらに夢を追いかけてきました。特に高校でお世話になった女性の先生が子育ても楽しみながら現場を改革しつつ教育に取り組む姿には憧れました。あれもこれも学びたいと思う中で、小、中、特別支援学校の教員免許や社会教育主事など、気づいたら10くらいの資格取得を目指してますね。あと魅力的なのは附属小の先生方から現場の授業の進め方など教えてもらえるなど、学びの場はとても充実しています。

目いっぱい授業で忙しくはありますが、ダンスサークルRealJamに所属してステージに立ったりもして。「来れるときでいいよー」とゆるく繋がってくれるおかげで楽しめています。

去年は学群の新歓委員長も務めました。元々人のお世話が大好きなタイプで、国際交流でネパールやマレーシアの孤児院でボランティア活動をしたり、高校生マイプロジェクトアワードの新潟事務局員として生徒の伴走をしたりもしています。4月には教育実習もかねてフィンランドに行きます。

アルバイトは、勉強を教える経験がたくて中高一貫校の寮生へ学習支援をしたのと、高校にサービスを提供する会社のインターンとしてストーリーテリングの裏方などを先輩の紹介でしています。

好きな作家は「何者」や「桐島、部活やめるってよ」の朝井リョウ、最近はキム・ウンジュの「+1cm」っていうエッセイを寝る前に読んでいますね。

〈受験生へ〉根拠がなくても「わたしは受かる。受かる気がする。」とマインドセットしてみませんか？気を張らずにね。



Interview 2

マジックと研究、
実は相性いいんです

心理学類 2年

服部 小太郎 さん
Hattori Kotaro

「人間フィールドワーク」の授業は研究室訪問のハードルが低く、1年から研究に携わることができる『唯一無二』といえる授業です。私自身はマウスの協調性やホルモンの作用など、データの直接収集、解析をする中で統計学や言語学にも興味がわき、そういった他学類の授業も受講しています。また2年次では選択を変えるのも自由だったり、縛りのないところも嬉しい点です。先生方の実験の人手不足解消と自分たちの知識や経験値の向上と、いいことだらけですね。

将来の夢、以前はお金持ちになりたいという願望だけでしたが(笑)、今は研究職に魅力を感じています。フィールドワークと一緒に参加した友人のひとりも研究者を目指していて、少ない男子の結束を図ってみたいです。

寮生活では、初めは慣れずに痩せましたね。今は隣人コミュニケーションもよくとれ、料金制シャワーのシェアなど節約も出来るので、2年目も寮で暮らします。

サークル選びは大規模な新歓祭でマジックンズクラブの虜に！今ではハトを出したり、ルービックキューブ一発揃えなど、近隣の子ども会や老人会などで披露して喜んでもらっています。大会ではマジックを通じて他大学生と親しくなれたり、我がクラブOBの先輩も精神科の研究職をされているなど、マジックと研究、実は相性いいんじゃないかな。熱意のあるものを誇らしげに語る研究者になります。

〈受験生へ〉カウンセラーや公認心理士などの臨床心理にも門戸が開かれているのでぜひ筑波大へ！



Interview 3

次は私が
ピア・チューターに！

障害科学類 4年

山本 彩佳 さん
Yamamoto Ayaka

私は車椅子ユーザーです。日々生活している中で障害について考える機会があり、将来は障害者がより生きやすい社会を実現したい、そのための研究者になりたいと考えるようになりました。その思いを高校の担任に話したところ、日本で唯一の「障害科学」という学問を学べる筑波大学を勧められ、受験を決意しました。

障害科学類は、一学年35人程度の少人数の学類で、先生方の面倒見がとても良いです。授業の内容は、障害の定義や、海外の障害観の比較など、障害に関する様々な知識を得ることができます。友人たちと障害に対するそれぞれの考えを話し合う機会も多くあり、授業はとても面白いです。

筑波大学には「ピア・チューター」という障害学生を支援する活動があり、私もピア・チューターの養成講座で障害を持つ側の目線からアドバイスやサポートをしています。

サークルは以前から興味のあった手話サークルとつくば鳥人間の会に所属しています。つくば鳥人間の会では、電装班に所属し、飛行機のコンピューター制御部分のプログラムを書いています。大学生になり、授業以外の活動の時間が増え、急に世界が広がりました。

これからチャレンジしたいことは、私もピア・チューターになり、自分の夢の実現の第一歩として、障害学生支援により深く関わっていきたくて考えています。

〈受験生へ〉先生と学生の距離が近く、個性豊かで優しい人がたくさんいるので、楽しい大学生活が送れると思います。応援しています。



Interview 4

なるほど！
なぜ？本当に？

教育学類 4年(2024年度)

高嶋 倫平 さん
Takashima Rinpei

東京に近いにも関わらず、落ち着いた雰囲気の中で学んでいます。現在はコロナ禍も明け、学内外の様々な場所で、多様な地域から集まった学生と交流ができるようになりました。授業でも鋭く高度な議論が繰り広げられています。学びの場では、教育学の各領域をリードする先生方と接する機会にも恵まれ、『なるほど、そういうことか!』と理解して終わりではなく、『なぜそうなのか?』『本当にそれなのか?』と思考を深めることができるのも魅力です。親身に、時には厳しく指導してくださるので、自身のモヤモヤを学問的レベルに引き上げていくことができます。

私自身は、現在の国内外の制度や政策を適切に理解した上で、教育を取り囲む社会の現状を踏まえ、どんな教育を目指すべきか、という理念的なところから教育を考えることができる研究者になりたいと思っています。また、現場に対する知識をつけるために教員免許の取得を目指し、サークルの先輩の紹介で塾講師のアルバイトもしています。頭で考えてだけでなく、現場で起こっていることに触れることも大切だと考えるからです。

現在はまっているのは地味ですが読書。最近だと沢木耕太郎さんの『深夜特急』はおもしろかった。読書は自身の視野を拡げてくれますね。

〈受験生へ〉受験はあくまで自分が進みたい進路への切符を手にするための手段であり、ゴールではありません。勉強はもちろんだけど、自分は何者になりたいのか、何に関心があるのかを考える時間を大切にしてください。



Interview 5

興味を突き詰められる
環境が嬉しい

心理学類 4年(2023年度)

長濱 奈甘乃 さん
Nagahama Naano

小学生の頃からいつかちゃんと心理学を学びたいと考えていました。しかし、高校生になり、どんな心理学を学びたいのか、心理だけを学んでいて他に興味が出てきたら将来どうするのか、などたくさんの迷いが……。そんな時、「つくばの心理学」(先生方が自分の研究や関心についてのエッセイをまとめた冊子)を読み、絶対に筑波大学の心理に行きたい!とピピッときました。カウンセリングなどの臨床からマウスを用いた実験まで幅広く心理学を学べる上、他学類の様々な授業も受けられる筑波大学は、好奇心溢れすぎる私にぴったりでした。

コロナ禍でオンライン授業が多かったのですが、興味のままに様々な授業し、異なる心理学領域のそれぞれのスペシャリストの研究や、またデザインや起業など他分野も学びました。わかったことは、やっぱり私は心理学が好きなんだなあって(笑)。

現在は、夢だった沖縄科学技術大学院大学でリサーチインターンとして研究しています。大学生活で得られた経験があったからこそ採用されたのだと思います。卒業研究も同時並行で非常にタイトですが、知的好奇心のままに興味を突き詰められる環境が嬉しいのです。このまま研究者になるのか、起業するのか、はたまた二足の草鞋を履くのか、まだ決められませんが、自分が大切にしたいことや得意なことは明確になったと感じています。

〈受験生へ〉受験勉強の息抜きに、大学に入学してキラキラとしている自分を思い浮かべてみるのはいかがでしょう。応援しています。



Interview 6

努力する者は
楽しむ者に敵わない

障害科学類 2年

佐藤 汰一 さん
Sato Taichi

高3の夏に参加した人間学群のオープンキャンパスで、特別支援教育を学べる障害科学類の受験を決めました。心理学、教育学、障害科学の3つの異なる分野を融合して学ぶことで、新しい視点や身に付けたり知識を深めることができるのが魅力です。

将来は、教育者というよりは障害者のサポートができる企業への就職を考えています。スーパーで見かけた視覚障害者の買い物のお手伝いをしていたら店員さんと間違われたりする私ですが(苦笑)、友人を含め、身近にたくさんいる障害者のお役に立ちたいと思っています。

部活は、小学生から続けてきた空手道部に迷わず入部。週3回の練習に加えて朝練や個人的にも筋トレをしています。男子は昨年の関東大学選手権二部で優勝し、10年ぶりに一部へ昇格！女子も関東信越選手権で準優勝と大健闘、みんなで力を合わせての結果に達成感を感じました。アットホームで仲が良く、夏合宿や学類を超えた交流も持てる空手道部、最強です。

私は入学当初からアパートで暮らしていますが、寮の友人などを招いてカレー作りや鍋パーティを開くなど、学業や部活以外の学生生活もエンジョイしています。

傍ら、ソバ屋とラーメン屋掛け持ちのアルバイトもしているのですが、麺づくしのまかないは食費の節約にも(笑)。

〈受験生へ〉自身がそうでしたが、模試の結果より過去問重視！何事も嫌々では伸びないと思うんです。楽しめる人には逆転勝利がある！、ってちょっと恥ずかしいけど伝えたいかな。





教育学類

College of Education



教育学類 学類長
國分 麻里



筑波大学人間学群教育学類へようこそ。教育学類は、東京教育大学教育学部教育学科を引き継いでおり、東京文理科大学（1929）、東京高等師範学校（1902）、東京師範学校（1872）とさかのばれば、約150年の歴史を有しています。この間多くの教授陣と卒業生を輩出して、日本の教育界を研究と実践の両面からリードしており、「教育の筑波」という言葉は現在でも広く伝わっています。教育学類の教授陣は、国内はもとより、国際的にも通用する最先端の研究を行っています。教育について広い視野から学びたい人、教師になりたい人、子どもの発達を支援したい人、教育行政機関や教育関連企業への就職を志望する人、教育研究者を志望する人などを歓迎します。教育学類は、教育学の奥深さを感じさせてくれるはずです。教育学類で共に学べる日が来ることを、教員一同楽しみにしています。

教育学類とは

教育学類では、総合的な教育学を構成するさまざまな研究領域のつながりを考えて、2つのコース（「教育学コース」「初等教育学コース」）と4つの系列（「人間形成系列」「教育計画・設計系列」「地域・国際教育系列」「学校教育開発系列」）を提案しています。2年次になると、小学校教員免許状の取得を強く希望する学生は「初等教育学コース」に所属します。また、学生は4つの系列の科目から、関心に応じて様々な授業を履修することができます。なぜならば、1つの系列のみの知識・技能を習得することよりも、教育学に関する知識・技能を全般的に学ぶことの方が、教育に関連した優秀な理論家・実践家となるには有効であると考えているからです。教育学類の学生には、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、「教育学」という学問をさまざまな観点から学ぶことが求められるのです。

教育目標

人間に関する総合的な知と教養

複雑化・高度化する現代社会を見据えた的確な人間理解のために、教育学と心理学及び障害科学の基礎を包括した、学際的・総合的な知と教養を身に付けます。

教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方

教育事象に対する鋭い問題関心と教育学全般についての幅広い学識を身に付け、教育事象についての総合的かつ体系的な見方・考え方を学びます。

教育専門家の資質

教育問題に対する理論的思考と現場体験との交流・融合を通して、学校、地域、国・自治体、企業、国際機関などの様々な「教育の現場」で必要とされる教育専門家としての資質を培います。

教育学の基礎的研究能力

教育に関する研究課題を設定し、データを分析し、説得力ある結論を導く実証科学的思考力とともに、その成果を表現する能力を培い、将来的に教育学研究の第一線を担う人材としての基盤を育成します。

分野紹介

専門家、研究者としての キャリアにつながる充実した研究環境

人間形成系列 ▶

教育に関する基礎について学びます。世界や日本の歴史をさかのぼって、教育という営みや学校というものがどのように成立・展開してきたかを考えたり、今日の教育のあり方を導いた人物の足跡・思想を捉え直したりします。教育の本質や原理を考える教養を習得し、学界や教育界の多様な分野への進路選択が期待できます。

教育計画・設計系列 ▶

現代社会では、教育実践の営みは国や地方自治体あるいは機関・団体などによる支援のもとに成り立っています。教育計画・設計系列では、教育の制度、行財政・法制、学校の組織・経営について、理論や歴史、日本や諸外国の制度や実践から学びます。そして、これからの学校教育のデザインと支援を開発・提言・実践できる人材を育成します。

地域・国際教育系列 ▶

教育的営みを社会・文化とのかかわりで実践的・理論的に探究します。地域社会における教育・学習活動について幅広く理解し、公民館、図書館、博物館、カルチャーセンターやスポーツ施設等の生涯学習の場で学習支援を行う地域社会教育の専門家、あるいは国際理解教育など国際的な場での教育支援に従事する専門家の道へとひらかれています。

学校教育開発系列 ▶

児童・生徒の成長とともに学校での教師のかかわり方は変わり、社会背景とも絡みながら、学校は進化し続けます。そのような学校教育の基礎・基本を学び、さらにそれを基盤として進化する学校教育に適応し、よりよい方向に変えていく力をもつ人間を育成することが学校教育開発系列の目指すところです。また、初等教育学コースでは実践的研究力を身につけた教員としての資質・素養を学ぶことができます。



授業科目

筑波大学は創設当初より、教養課程と専門課程というような区別を設けず、教養教育的な科目(「基礎科目」と専門教育的な科目(「専門基礎科目」「専門科目」)を有機的に連携させた教育課程(カリキュラム)を編成しています。

1年次の授業科目は、「基礎科目」と「専門基礎科目」が中心です。「専門基礎科目」には「教育学類共通科目」のほか、「人間学群コア・カリキュラム」のような人間学群に共通する入門科目があります。1年次の履修では、教育学に加えて、心理学と障害科学という人間学群に属する他の学問分野を学ぶことができます。また、2年次になると、「教育学コース」と「初等教育学コース」に分かれて、「教育学類共通科目」と「専門科目」を履修することになります。2年次に履修する授業は、1年次に履修する授業と比べると専門性が高くなるのが特徴です。また、「教育インターンシップ実践演習」や「教育学研究法」のように、さまざまな体験を通して、教育学を実践的に学ぶことができます。そして、3年次には「専門科目」を履修することで、教育学を専門的に学ぶ機会が増大します。先に教育学類には4つの系列があることを説明しましたが、3年次には4つの系列の授業を全般的に学ぶとともに、特に関心のある1つの系列の授業を集中的

に学ぶこととなります。こうして身に付けられた教育学の専門的知識が、4年次に取り組むこととなる「卒業研究」の基礎となります。

これ以外に、教員免許を取得する学生は、「教職科目」を履修することになります(ただし、小学校教員免許の取得を目指す学生は、原則として2年次に「初等教育学コース」に所属したうえで履修します)。教員免許に必要な「教育実習」は、筑波大学の場合、4年次に行うこととなります(小学校教員免許の場合、原則として3年次に行う)。また、社会教育主事の資格を取得する学生は、「社会教育主事科目」を2年次・3年次に集中的に履修することになります。さらに、筑波大学には、学生が人間学群・教育学類という垣根を越え、他の学群・学類の授業を自由に履修できるという特徴があります。これが、「その他」の科目です。

大学の授業は、高校時代とは異なり、学生の主体性が基本となります。自ら学ぶことを通してのみ、学問の奥深さと面白さを学ぶことができるのです。

開設授業科目の例

●教育哲学演習 〈人間形成系列〉	個性の伸張と社会性の育成という対立的要素を含んだ二つの教育目的をいかに両立させるか、という近代教育が抱えてきた課題について、現代の教育に関わるさまざまな問題を取り上げながら考察します。各自が関心のあるテーマをもとに、幅広い側面から考えます。
●教育制度論 〈教育計画・設計系列〉	「学校教育制度をつくってみる」という観点から、学校教育を構成する主要な制度的要素を取り上げ、現行制度の根拠とその改革の可能性について検討します。授業ではジグソー法による協調学習も取り入れ、受講生相互で検討しながら考えを深めます。
●教育改革の国際比較 〈地域・国際教育系列〉	諸外国の教育改革に着目し、各国の教育をめぐる現代的な諸課題について、日本も含め国際比較の観点から考察します。授業では、前提となる各国の教育理念・制度・政策についての理解を深めつつ、受講生の発表をもとに議論を行い、テーマについて検討します。
●社会認識教育論 〈学校教育開発系列〉	学校教育で展開される社会認識を高める方法について、その理論と方法を、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら概説します。具体的なテーマとしては、サービス・ラーニング、多文化教育、まちづくり学習、主権者教育、人権教育などを取り上げます。

教育学類カリキュラム

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
基礎科目	●総合科目(学問への誘い・ファーストイヤーセミナー) ●総合科目(学士基盤科目) ●体育 ●第1外国語 英語 ●第2外国語 初修外国語 ●情報	●体育	●総合科目(学士基盤科目-高年次向け-)	
人間学群 専門基礎科目	●人間学Ⅰ ●教育基礎論 ●学校の経営・制度・社会 ●心理学概論 ●障害科学Ⅰ又はⅡ ●キャリアデザイン入門	●人間フィールドワークⅠ～Ⅲ ●人間学Ⅱ ●心理学類・障害科学類の開設科目		
教育学類		●教育インターンシップ基礎論 ●教育インターンシップ実践演習 ●教育学研究法A ●教育学研究法B	●教育学実践演習	
専門科目				●卒業研究
人間形成系列		教育哲学、教育哲学演習、日本教育史、日本教育史演習、道徳教育論、道徳教育論演習、比較道徳教育論、比較道徳教育論演習、教育思想論、教育思想論演習、キャリア教育論、キャリア教育論演習、アジア教育史、アジア教育史演習、外国教育史、外国教育史演習		
教育計画・設計系列		教育制度論、教育制度論演習、学校経営論、学校経営論演習、高等教育論、比較教育制度論、比較学校経営論、比較学校経営論演習、教育行政論、教育行政論演習、教師教育論、教師教育論演習		
地域・国際教育系列		生涯学習論、生涯学習論演習Ⅰ、生涯学習論演習Ⅱ、比較教育文化論、比較教育文化論実習、国際教育論、環境教育論、人権平和教育論、言語教育論、子どもと外国語、地域と教育、比較高等教育論、比較高等教育論演習、社会教育論、教員政策と国際協力、教育改革の国際比較、教育社会学Ⅰ、教育社会学Ⅱ、教育社会学演習Ⅰ、教育社会学演習Ⅱ		
学校教育開発系列		教育課程論、学習指導論、教育工学、視聴覚教育論、学習情報処理論、教育臨床学、教育臨床学演習、社会認識教育論、数学教育論、科学教育論、児童文学論、理科教育論、数学教育史、カリキュラム開発演習、学習指導論演習、児童文学論演習、数学教育論演習、特別活動論、特別活動論演習、海外授業研究演習、海外授業研究実習、初等外国語活動、初等特別活動論、生徒・進路指導論、教育相談論、初等特別支援教育、初等総合的な学習の時間の指導法、教育心理学、教職論、日本史概論、地理学概論、地誌概論、社会学概論、心理学概論、哲学概論、初等教科教育法、初等国語、初等社会、初等算数、初等理科、初等生活、初等音楽、初等図画工作、初等体育、初等道徳教育論、初等家庭、教育実習(小学校)、教職実践演習(小)、初等外国語、初等特別活動論		

※ 教員免許の取得を目指す場合は上記に加えて教職科目(教員資格を得る上で履修を定められた科目、教育実習を含む)を修得する。
※ 社会教育主事資格の取得を目指す場合は、履修を定められた社会教育に関する科目を修得する。



心理学類

College of Psychology



心理学類 学類長
外山 美樹



心理学類とは

心理学を学ぶことのできる大学は全国に数多くありますが、筑波大学心理学類ほど、長い歴史を通して、一つの学科で広い分野にわたって心理学の研究者を擁している大学はありません。心理学類では、異なる心理学分野を専門とする約30名の教員が学類生の教育に携わります。「これも心理学なの?」と思われるかもしれない様々な「心理学」が筑波大学にはあります。是非、多くを学び、「これは面白い!」と思える分野に出会い、強く魅了されて欲しいと思います。

心理学は、人間の心や行動がかかわることすべてが研究対象となりますので、間口が広く、かつ深い人間理解が可能となるたいへん魅力的な学問です。心理学は一般的には文系の学問と捉えられていることが多いですが、理系に強い人が力を発揮できる学問でもあります。そのため、入試科目の選択肢は幅広く対応しています。

教育目標

入学後は、1・2年次で心理学の基礎的な知識だけではなく、心理統計や方法論という科学的な研究を行うための手段を学び、また専門の英書を読みこなし、実際の心理学の実験や調査に協力者として参加することで、机上の学問に留まらず、心理学の研究を身をもって体験します。2・3年次ではより主体的に選択して専門分野の講義を受けつつ、演習で最新の研究動向を勉強します。同時に、教員の指導の下、個人またはグループで研究計画を立て、実験や調査をし、データを集めて分析し、その結果を発表するという一連の研究実習を行います。そして、4年次には各自の興味関心に応じた分野で卒業研究を行い、卒業論文を作成します。社会には心理学の知識や研究成果を生かせる場が数多くあり、一般企業に就職する人も多いのですが、専門を生かした、例えば、少年鑑別所や刑事施設の法務技官(心理)や家庭裁判所の調査官、児童相談所の児童心理司・心理判定員などの職に就く人もいます。また、研究者やより高度な専門職職業人を目指して大学院へ進学をする学生が半数近くにのびります。

心理学は、人間の心と行動を科学的にまた実証的に探究する学問です。私たちは、日常生活の中で、文字を読み、景色を愛で、思い出にふけり、喜んだり、悩んだりといった心的活動を経験します。心理学では、誰しもが経験する様々な心的活動を実証的に研究します。しかし、このような心的活動は、手にとって直接的に「メジャー」をあてて測ることができませんから、何らかの方法で間接的に測ることになります。そこに心理学の研究の難しさと創造性を発揮できる醍醐味があります。

日々の生活の中で私たちが「当たり前」にこなしていることに対して「なぜ?」と好奇心を持てるみなさん、筑波大学心理学類で心の仕組みの不思議を探検してみませんか。

分野紹介

心理学の専門分野と心理学類で学べる内容のマッチング

生理、比較、感覚知覚 ▶

視覚、聴覚、嗅覚などの感覚や知覚の興味深い現象やその仕組み、人と動物のこころの共通性や違い、学習・記憶、感情、動機づけ、ストレスなどにかかわる脳神経系やホルモンの多様なメカニズムについて学ぶことができます。

認知、学習、心理測定 ▶

記憶や認知の基本的な仕組み、学びを支える動機づけや創造性のあり方、学びや人間関係を通じた能力や自己認知の変化、人々の教えあいと学びあいのプロセスとそれを支えることばの役割、こころの変化を測定する方法などについて学ぶことができます。

発達、生涯発達、発達臨床 ▶

対象とする年齢によって、幼児、児童、青年、老年の心理学に大きく分かれていますが、一生の発達を統合的に扱うこともできます。テーマを絞って認知の発達、感情の発達、行動の発達といった点から学ぶこともできます。それぞれの年齢層で表れる問題の理解とケア、発達支援についても学ぶことができます。

社会、対人関係、組織 ▶

対人関係の心理、インターネットやマスメディアの影響などの社会現象、攻撃行動のような社会行動の病理的側面、感情と行動の関連、組織の中の人間同士の相互作用、キャリア発達などについて広く学ぶことができます。

臨床、カウンセリング、人格 ▶

心理的障害や不適応に関する基礎理論や臨床的方法について学ぶとともに、ストレスの問題など個人及び集団のこころと身体のウェルビーイングについて心理学的視点から学ぶことができます。また人格の理論と病理、犯罪・非行、家族、カウンセリングを支える理論と技術についても学ぶことができます。



授業科目

心理学類のカリキュラムは、幅広い内容を偏りなく学ぶことができるように編成されています。

専門基礎科目では、全般的な心理学の基礎知識や心理統計や実験実習など方法論の習得を目指します。専門科目には、より多彩な内容が含まれており、とくに3年次の終わりに行う卒業研究セミナーから4年次で行う卒業研究へとつながる流れは心理学類における教育の総決算です。

実験心理学に関連した授業科目からは、視覚・聴覚・嗅覚などの感覚や知覚の興味深い現象やその仕組み、人と動物の心の共通性や違い、学習・記憶、感情、動機づけ、ストレスなどにかかわる脳神経系やホルモンの多様なメカニズムについて学ぶことができます。

教育心理学に関連した授業科目からは、人々の教えあいと学びあいのプロセスの仕組み、とくに学びを支えることばなどの社会文化的仕組みや、記憶や認知現象などの基本的仕組み、そして学びを通した能力の発達や変化、さらに心の変化を測定する方法などについて学ぶことができます。

発達心理学に関連した授業科目は、対象とする年齢によって、幼児、児童、青年、老年の心理学に大きく分かれますが、一生の発達を統合的に扱うこともできます。テーマを

絞って認知の発達、感情の発達といった点から学ぶこともできます。それぞれの年齢層で表れる問題の理解とケアについても学ぶことができます。

社会心理学に関連した授業科目からは、対人関係の心理、インターネットやマスメディアの影響などの社会現象、攻撃行動のような社会行動の病理的側面、感情と行動の関連、組織の中の人間同士の相互作用、キャリア発達などについて広く学ぶことができます。

臨床心理学に関連した授業科目では、心理的障害や不適応に関する基礎理論や臨床的方法について学ぶとともに、ストレスの問題など個人及び集団の心と身体のウェルビーイングについて心理学的視点から学ぶことができます。また人格の理論と病理、犯罪・非行、家族、カウンセリングを支える理論と技術についても学ぶことができます。

以上のように、心理学類では、学生の皆さんひとりひとりの興味・関心に応じて、心と行動への多様なアプローチを身につけることができます。講義や少人数での演習もたくさん用意されており、同じ曜日や時限に複数の授業科目が用意されているため、どれを履修すべきか入学後に悩むかもしれません。

開設授業科目の例

- 心理学英語セミナー

心理学研究では、英語の文献から情報を得るスキルは必要不可欠です。心理学の複数の領域における基礎的な英語の論文や書籍の講読を通じて、英語の読解力、表現力を高めると同時に、心理学研究における考え方、研究の進め方、論文のまとめ方を学びます。
- 心理学実験

心理学にかかわる基礎知識と技術を体験的に習得するため、様々な専門分野について、実験と実習を行います。実験者と参加者の立場をそれぞれ体験することに加え、レポートを作成することで、各分野におけるデータ解析の仕方や、論文の書き方を学びます。
- 心理学上級

臨床心理学、カウンセリング心理学、発達臨床心理学、青年心理学、認知心理学、教育心理学、産業心理学、社会心理学、犯罪心理学、学校心理学、知覚心理学、計量心理学、自己心理学、動物心理学、行動神経科学などの分野について、講義や演習を行う専門科目群です。
- 公認心理師の職責

心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について、実務経験のある教員から学ぶ科目です。公認心理師の役割、法的義務及び倫理、情報の適切な扱いや、具体的な業務をはじめとして、生涯学習への準備や、多職種連携についても概要を知ることができます。

心理学類カリキュラム

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
基礎科目	●総合科目(学問への誘い・ファーストイヤーセミナー) ●総合科目(学士基盤科目) ●体育 ●第1外国語 英語 ●第2外国語 初修外国語 ●情報	●体育	●総合科目(学士基盤科目-高年次向け-)	
人間学群	●人間学Ⅰ ●教育基礎論又は学校の経営・制度・社会 ●障害科学Ⅰ又はⅡ ●キャリアデザイン入門	●障害者・障害児心理学		
専門基礎科目	●心理学概論 ●心理学研究法 ●心理学統計法Ⅰ・Ⅱ ●心理学統計法実習	●人間フィールドワークⅠ～Ⅲ ●人間学Ⅱ ●教育学類・障害科学類の開設科目		
心理学類		●心理学英語セミナー ●心理学実験	●心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ	
専門科目		●臨床心理学概論 ●知覚・認知心理学 ●学習・言語心理学 ●感情・人格心理学 ●神経・生理心理学 ●社会・集団・家族心理学 ●発達心理学 ●教育・学校心理学 ●産業・組織心理学 ●司法・犯罪心理学 ●心理的アセスメント ●心理データ解析 心理学上級科目群	●卒業研究セミナー	●卒業研究

行動神経科学、社会行動の神経科学、認知心理学、教育心理学、発達臨床心理学、中高年の心理学、青年心理学、産業心理学、臨床心理学、犯罪心理学、学校心理学、知覚心理学、社会心理学、感情・臨床心理学、カウンセリング心理学、計量心理学、自己心理学、実験社会心理学など



障害科学類

College of Disability Sciences



障害科学類 学類長
宮本 昌子



障害科学類とは

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。

教育目標

障害科学類には「障害科学」「特別支援教育学」「社会福祉学」の3つの学位に対応した履修モデルを設定しています（「障害科学履修モデル」「特別支援教育学履修モデル」「社会福祉学履修モデル」）。この3つのモデルに共通した人材養成の目的は次のとおりです。

「乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。」

「障害科学」は教育学、心理学、生理学、社会福祉学等を複合させて「障害」を考える比較的新しい学問分野です。

「障害」というと、一般的には深刻で辛い側面を思い描かれがちですが、日本のような成熟した少子高齢化社会では、頭を柔らかくし、弱いところだけでなく強みに注目し、逆転の発想で問題解決できる人材が必要になるでしょう。

障害科学類の大学生活では、障害についての知識が深まるとともに、人間を観察する力や、様々な事象を多方面から捉え思考する力が身につくと思います。また、この分野の学びには、相手の立場も良く理解できるような資質を持っていることが大変重要です。健康で思う存分に学び、今しかできない経験を積んでほしいと願っています。

分野紹介

専門家、研究者としての
キャリアにつながる充実した研究環境

障害科学 履修モデル

障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、知的・発達・行動障害学、運動・健康・高齢障害学、音声・言語障害学、障害原理論、障害福祉学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究で用いられる多様な技術の基礎を修得します。

特別支援教育学 履修モデル

わが国における特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指すものです。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある幼児児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関わる広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）のすべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。

社会福祉学 履修モデル

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組みを越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



授業科目

障害科学類では、幼児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけていきます。4年間の学びを通じて、共生社会の創造に貢献し、国際的に活躍できる人材を養成できるようカリキュラムが編成されています。

障害科学類では学修の参考のために「障害科学履修モデル」、「特別支援教育学履修モデル」、「社会福祉学履修モデル」の3つの履修モデルを示しています。詳細は「分野紹介」を参照ください。

1年生では主にモチベーションを高め、学びの基礎を整えられるようカリキュラムが工夫されています。具体的には、「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基礎的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。

1～2年生からは障害別の心理・生理・病理・教育方法に関する授業や社会福祉の制度や支援に関する授業等で各専門領域の基礎や方法論を学び、「心理学統計法Ⅱ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。また、少しずつ進路についても考えられるよう「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等もあります。

3～4年生になると実習や演習を通じて研究手法を修得するほか「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、修得した研究手法を用いて実際に研究を計画・実行し、卒業研究をまとめていきます。なお、「社会福祉学履修モデル」の場合には1～2年生から社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目が入ってくるほか、3～4年生から「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学んでいきます。「特別支援教育学履修モデル」の場合には、特別支援学校教諭免許状取得に必要な専門科目の履修のほか、3～4年生には「特別支援教育実習」（附属特別支援学校での教育実習など）を通じて基礎的実践能力を身に付けていきます。

開設授業科目の例

●障害科学Ⅰ・Ⅱ	障害科学について基礎的な知識を教授することを目的とした授業です。Ⅰでは障害に関する生理・心理学の立場から、Ⅱでは障害原理論・特別支援教育学や障害福祉学の立場から障害科学について考えます。障害科学類を担当する教員20人以上が講義するオムニバス方式の授業です。
●障害科学実践入門	附属視覚特別支援学校、聴覚特別支援学校、桐が丘特別支援学校、大塚特別支援学校、および久里浜特別支援学校の見学・授業参観を通して、障害のある子どもと彼らへの支援の実際について理解を深める授業です。
●障害科学研究法入門・実習	障害科学の研究にかかわる基礎知識と技術を教授することを目的とした授業です。入門では講義を通じて、実習では研究技術を体験的に修得するため、各種の実験や実習を行います。実習では博士後期課程に在籍する大学院生との関わりもあります。
●Current Topics in Disability Sciences	英語でのディスカッションや、発表を中心とした授業です。この授業では障害科学に関する基礎知識を英語で学ぶとともに学んだ知識やアイデアを海外に発信するために必要な英語力やプレゼンテーション力の修得を目指します。

障害科学類カリキュラム

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
基礎科目	●総合科目(学問への誘い・ファーストイヤーセミナー) ●総合科目(学士基盤科目) ●体育 ●第1外国語 英語 ●第2外国語 初修外国語 ●情報	●体育	●総合科目(学士基盤科目-高年次向け-)	
人間学群 専門基礎科目	●人間学Ⅰ ●教育基礎論 ●学校の経営・制度・社会 ●心理学概論 ●キャリアデザイン入門 ●障害科学Ⅰ・Ⅱ	●人間フィールドワークⅠ～Ⅲ ●人間学Ⅱ ●教育学類・心理学類の開設科目		
障害科学類	●障害科学実践入門 ●障害原理論Ⅰ・Ⅱ ●障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ ●障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ ●Current Topics in Disability Sciences	●障害科学研究法入門・実習		
専門科目			●卒業研究Ⅰ	●卒業研究Ⅱ
	障害科学履修モデル	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論、社会福祉原論など 自閉症スペクトラム障害臨床実習、重複障害の理解と支援、聴覚障害とリテラシー、 高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学など		
	特別支援教育学履修モデル	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論など 視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、運動障害教育学、健康障害の指導法、 知的障害学校教育論、特別支援教育実習など 卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学など		
	社会福祉学履修モデル	医学概論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉原論など 社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、相談援助の理論と方法、 相談援助の基盤と専門職、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など 卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学など		

海外交流

人間学群では、筑波大学で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。

協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることが出来る
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。

詳しくはHP(<https://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/partner-organizations/>)をご覧ください。これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。



体験記

良本 翠さん

教育学類 4年(2024年度)

留学先：ドイツ
Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität Bonn (ボン大学)



「外国につながる子ども」の支援に興味を持っていた私は、移民の多い国として知られる、ドイツへ1年間留学しました。自分自身が多様な文化圏のクラスメイトに囲まれることで、それぞれの持つ背景によって、コミュニケーションの回り方や、語学習得でつまづくポイントが違うことを体感しました。さらに、日本語学科の授業にチューターとして参加することで、何かを「教える」ということに対しても新たな視点を獲得できました。意志さえあれば、教職課程を履修しながらでも留学ができる環境です。ぜひ挑戦してみてください！

上地 花奈さん

心理学類 4年(2023年度)

留学先：アメリカ
University of New York at Oswego
(ニューヨーク州立大学オスウェゴ校)



私は約10ヶ月間、アメリカの大学に留学しました。特に印象に残っているのは、スペイン語の授業です。日本での授業と異なり、スピーキングがメインであったため、新しい言語を話す楽しさを実感することができました。留学中の一番の思い出は寮生活です。留学生が多く滞在する寮で、毎週様々なイベントが開催されていたため、多様なバックグラウンドや考え方を持つ人たちと交流することができ、大きく視野が広がりました。留学を考えている方は、ぜひチャレンジしてみてください！

隅田 ももさん

障害科学類 4年(2024年度)

研修先：韓国
Yonsei University
(延世大学)



私は現在、韓国の延世大学に留学しています。大学では主に韓国語と福祉関係の講義を取っていますが、どの講義でも学生同士だけでなく、教授、そして来校された関係機関の方々との積極的なやりとりが印象的です。自分で考えて発信する、相手を理解しようとする姿勢はどんな環境にいても重要だと強く感じることができました。また、講義を通してできた友達とご飯を食べたり、遊びに行ったりするのもとても楽しいです。海外生活は大変なこともあります、自分の世界を広げる良い機会になっていると感じています。

大学院

筑波大学は、研究大学として大学院が充実していることが特徴です。学群卒業後にそのまま大学院に進学して、博士前期課程(2年)修了後に研究所、学校、企業等に就職する方も多くいます。さらに博士後期課程(3年)にも進学して、10年近くをつくばで過ごしたのち、国内外の大学教員・研究職を目指すことも可能です。人間学群に関係の深い分野として、以下の学位プログラムが設置されています。

教育学学位プログラム

博士前期課程は、国内外の大学や研究機関等において教育学諸分野の教育・研究に従事し、各分野の研究を牽引する研究者を養成する「教育基礎科学サブプログラム」、次世代の教育をリードする高度専門職としての学校教員を養成する「次世代学校教育創成サブプログラム」、国際教育に関する研究と学習を行い、修士の学位を取得するとともに、国際バカロレア教員資格(IB educator certificates)を取得できる「国際教育サブプログラム」の3つのサブプログラムに分かれています。博士後期課程では、政策と実践の改革を国際的に先導することのできる教育学研究者ならびに高度専門職業人を養成しています。

心理学学位プログラム

心理学学位プログラムでは、心理統計学、認知心理学、感覚・知覚心理学、教育心理学、社会心理学、発達心理学、そして臨床心理学まで、幅広い分野の専門家の養成を行っています。心理臨床学サブプログラムでは、前期課程で公認心理師と臨床心理士第1種指定校のカリキュラムを整備しています。後期課程では、心理基礎科学及び心理臨床学のどちらのサブプログラムでも、大学や研究機関に就職する研究者の養成を行っており、これまで多数の優れた研究者を輩出しています。産業技術総合研究センターや国立精神・神経医療研究センターと連携大学院協定を結び、これらの機関の優れた研究者も指導教員として参加しています。

筑波大学大学院

人間総合科学研究群

- 教育学学位プログラム
- 心理学学位プログラム
- 障害科学学位プログラム
- ニューロサイエンス学位プログラム
- ヒューマン・ケア科学学位プログラム
- カウンセリング学位プログラム・
カウンセリング科学学位プログラム
- リハビリテーション科学学位プログラム

他
大
学
大
学
院

そ
の
他

人間学群

教育学類

心理学類

障害科学類

障害科学学位プログラム

障害科学に特化した大学院は日本国内では珍しく、所属する教員や院生の人数は国内でも突出して多く、その研究の守備範囲はとても広く、教員や院生による卓越した研究成果は国内外に数多く発信されています。障害科学は学際的な学問であり、教育学、心理学、医学、福祉学を始め、保健学、建築学、通信科学、法学、政策科学など他分野との関係がとても多くユニークな学問です。様々な障害について、幼少期から学童期、成人期、そして高齢者までの全てのステージにおける研究を行います。また、障害のある本人に関する研究のみならず、きょうだいや家族、学校、職場、地域などに関する研究も行います。

このような本学位プログラムでは、この分野における国内外で活躍する障害科学におけるトップリーダーを養成するとともに、高度専門職人、卓越した研究者、その他、この分野で幅広く活躍する人材を養成しています。また、昨今の、障害に関する理解啓発とインクルーシブな社会に向けて、民間企業も含めこれまで以上に様々な進路先での活躍が始まっています。

ニューロサイエンス学位プログラム

本学位プログラムでは、心の基盤である脳について、様々な側面から研究します。基礎神経科学、心理学、行動学を専門とする研究者に加え、臨床医学(精神神経医学)、臨床障害科学、生物学などを専門とする研究者・臨床家が集結し、広範な研究フィールドを基盤として、「ニューロサイエンス」分野の国際競争力を持つ人材を育成する日本で唯一の大学院教育課程です。博士前期課程の段階から、世界に通用するレベルの研究を行い、その成果を世界に発信できる高度な語学力・コミュニケーション能力を有する人材の育成に取り組んでいます。

社会人大学院(東京キャンパス)・博士後期課程の学位プログラムの紹介

ヒューマン・ケア科学学位プログラム

3年制博士後期課程の本学位プログラムでは、人々の抱える問題・課題に関する高度専門的知識を備え、課題解明に関する研究能力と技術、人へのケアと支援に関する方法・技術、その指導に関する高度専門的知識と技術を身につけた人材を養成しています。特に、心理学、医学、看護学、保健学、教育学、体育学など、多岐にわたる専門領域の理論や研究法が学べ、複数の専門分野の教員から研究指導を受けられる点が、本学位プログラムの魅力です。ただし、ヒューマン・ケア科学学位プログラムは、令和8(2026)年度に廃止され、パブリックヘルス学位プログラムに統合されることになっています。

カウンセリング学位プログラム・カウンセリング科学学位プログラム

現職社会人(過去に社会人経験のある方を含む)を対象とした東京キャンパスにある大学院です。博士前期課程(カウンセリング学位プログラム)では、様々な社会的な場で生じる課題を心理学の観点からとらえなおし、問題解決や実践、社会実装に生かす研究を推進しています。博士後期課程(カウンセリング科学学位プログラム)でも同様に、心理・社会・発達・教育・保健・医療・福祉などの幅広い領域における課題の解決を目指す、科学者・実践家モデルを基盤に教育や研究を行います。研究型高度専門職業人を養成することを目的とした、博士後期課程です。

リハビリテーション科学学位プログラム

東京キャンパスにある社会人向け大学院です。ここには、老年学、障害者福祉、運動障害学、発達障害心理学、視覚障害学、理療教育学、職業リハビリテーション、ダイバーシティ&インクルージョンなどを専門とする教員が配置されています。博士前期課程の特色は、リハビリテーション分野における幅広い視野の獲得と専門性の深化を図ることです。博士後期課程の特色は、包括的なリハビリテーション分野に関わる課題解決に焦点づけた研究型高度専門職業人を養成することです。リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する学際的な能力の習得を目指します。

卒業後の進路

【学群としての取り組み】

人間学群では大学生活4年間だけでなく、大学生活の入り口と出口についての取り組みも行っています。入学前には高校生に対して人間学群の大学生活について情報提供の場を設けています。入学後はクラス担任や指導教員が生活と学習を支援します。そして大学生活の後に続くさらに長い社会人生活のために、学群生の卒業後の人生設計についての取り組みに力を入れています。

1年次春学期の「ファーストイヤー・セミナー」は、大学生活を知り、有意義な4年間を送るための授業です。「人間学群生の進路」についてのレクチャーを聞いて、新入生は将来をイメージし、目標達成のための行程をデザインし始めます。1年次秋学期には、就職委員会が担当する授業の「キャリアデザイン入門」があります。授業内容は、①キャリアの研究者による基調講演、②進路決定をしたばかりの4年生たちからのトーク(a.大学院進学内定者、b.公務員・教員内定者、c.企業・団体職員内定者、d.留学経験者)、③各学類を卒業した社会人による専門職についての講演、④各学類からの大学院進学レクチャーです。自分たちと同じ学習環境にいた先輩のことばは、自分にもできる、自分になれる、と思わせてくれる大きな刺激となります。この授業をきっかけにして、自分の進路を定めて、数年後に自分が話す側として帰ってきてくれる学生もたくさんいます。

就職委員会では、人間学群における学びと関連させて、人間学群生ひとりひとりのキャリアデザインを支えています。

【大学としての取り組み】

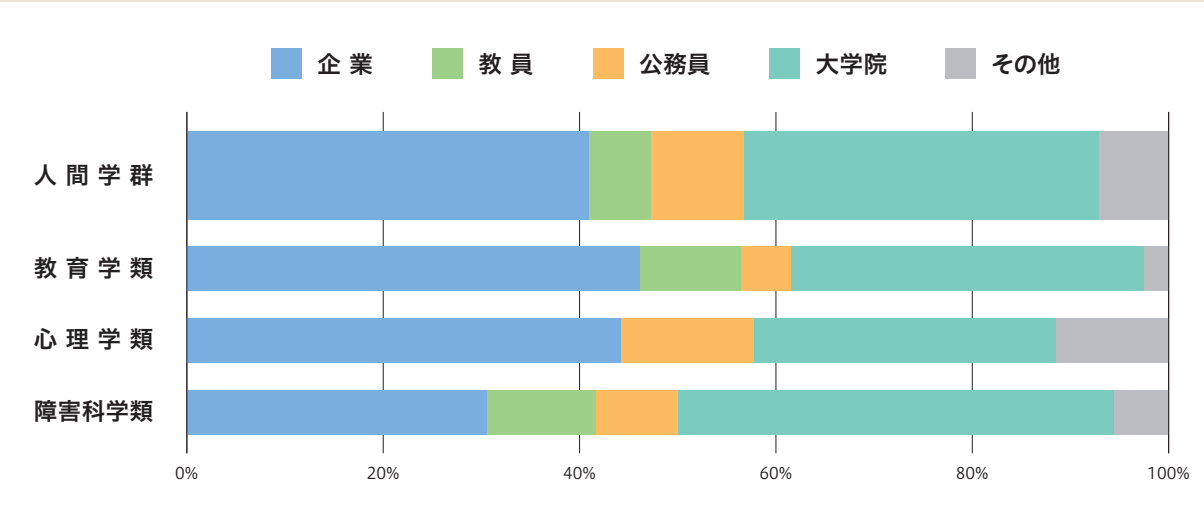
筑波大学では学生みなさんの「学び」と「キャリア」を関連づけるため様々な取り組みがなされています。詳しくは「筑波大生のための進路応援サイト」をご覧ください。

https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=348



卒業後進路状況

(令和6年度)



大学卒業後の主な進路

教育学類	心理学類	障害科学類
大学院進学の例 筑波大学大学院 ▶ 教育学学位プログラム (国際教育サブプログラム、次世代学校教育創成サブプログラム、教育基礎科学サブプログラム) 他大学大学院 ▶ 北海道大学、東京大学、お茶の水女子大学、東京学芸大学	大学院進学の例 筑波大学大学院 ▶ 心理学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム 他大学大学院 ▶ 東北大学、京都大学、東京大学、東京学芸大学、お茶の水女子大学	大学院進学の例 筑波大学大学院 ▶ 障害科学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム 他大学大学院 ▶ 京都大学、お茶の水女子大学、立命館大学、上智大学
就職先の例 〈企業・団体〉 マスコミ・出版 ▶ 共同通信社、日本文教出版、早川書房、リクルート、テレビ長崎 教育 ▶ ベネッセコーポレーション、学究社、秀英予備校、新教育総研、ステップ、富山育英センター、東進ハイスクール 金融・保険 ▶ 三菱東京UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、常陽銀行、野村証券、第一生命保険 商社・流通 ▶ 三井物産、住友商事、伊藤忠商事、セブン-イレブン・ジャパン、ニトリ、しまむら、日本コプ共済生活協同組合連合会 サービス ▶ NRIデータiテック、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、キャノンマーケティングジャパン、パソナ、全日本空輸、名古屋鉄道、JR東日本 建設・不動産 ▶ 積水ハウス、レオパレス21 福祉 ▶ 日本赤十字、社会福祉法人筑波会筑波愛児園 〈学校教員〉 公立 ▶ 茨城県、東京都、千葉県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、鹿児島県、横浜市 私立 ▶ 麗澤中学校・高等学校、東洋英和女学院中学部・高等部 〈官庁・自治体〉 法務省、自衛隊、福島県、茨城県、東京都、千葉県、愛知県、富山県、大阪府、茨城県警、つくば市、柏市、横浜市、四日市市、大阪市 〈独立行政法人等〉 日本貿易振興機構、筑波技術大学	就職先の例 〈企業・団体〉 出版 ▶ 東洋経済新報社、中央出版 教育 ▶ ベネッセコーポレーション、秀英予備校、アイディアヒューマンサポートサービス 金融・保険 ▶ 野村証券、アメリカンファミリー生命保険、明治安田生命保険、三井住友海上火災保険、常陽銀行、沖縄銀行 商社・流通 ▶ 三井物産、セブン-イレブン・ジャパン、ユニクロ、良品計画、ニトリ 情報・通信 ▶ NTTドコモ、日立ビジネスソリューション、ディー・エヌ・エー 医療・福祉 ▶ 星総合病院、メディポリス医学研究財団、ニチイ学館、社会福祉法人梓友会、社会福祉法人三篠会、全国自立援助ホーム連絡協議会 運輸・旅行 ▶ 全日本空輸、首都高速道路、日本自動車連盟 電機 ▶ 京セラ、日本ヒューレット・パッカーード 〈学校教員〉 公立 ▶ 群馬県、神奈川県、島根県 〈官庁・自治体〉 法務省、法務省東京矯正管区、水戸地方検察庁、八王子少年鑑別所、関東地方更生保護委員会、国土交通省航空保安大学校、茨城県、栃木県、群馬県、東京都、新潟県、奈良県、つくば市、横浜市、名古屋市、広島市、福岡市 〈独立行政法人等〉 理化学研究所、防災科学技術研究所、日本学生支援機構、日本芸術文化振興会、勤労者退職金共済機構	就職先の例 〈企業・団体〉 福祉 ▶ LITALICO、パーソルダイバース、全国社会福祉協議会、高齢・障害・求職者支援機構・障害者職業センター、ニチイ学館、社会福祉法人福祉楽団、社会福祉法人南風会 サービス ▶ 日本総合研究所、PwCコンサルティング、野村総合研究所、共同通信社、リクルート、横浜DeNAベイスターズ 金融・保険 ▶ かんぽ生命保険、JCB、常陽銀行、群馬銀行 情報・通信 ▶ 日本エンタープライズ、日本GPSソリューションズ、インフォテック朝日、ソフトバンク 流通・飲食店 ▶ そごう・西武、スターバックスコーヒージャパン 運輸 ▶ 全日本空輸、JALエクスプレス 〈学校教員〉 公立 ▶ 北海道、青森県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、長野県、長崎県、三重県 〈官庁・自治体〉 法務省、法務省大阪矯正管区、中部地方更生保護委員会、東京都、神奈川県、茨城県、埼玉県、横浜市、さいたま市



取得可能な免許・資格

教育学類

College of Education

教員免許※1

- 小学校一種免許状
- 中学校一種免許状(社会)
- 高等学校一種免許状(地理歴史、公民)

他の資格※2

- 社会教育主事
- 学芸員
- 司書教諭

心理学類

College of Psychology

教員免許※1

- 高等学校一種免許状(公民)

心理学関係

- 認定心理士(社団法人日本心理学会)
- 公認心理師受験資格が取得可能な教育体制も整えてあります。

他の資格※2

- 社会教育主事
- 学芸員
- 司書教諭

障害科学類

College of Disability Sciences

教員免許※1

- 高等学校一種免許状(福祉)
- 特別支援学校教諭一種(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱)

社会福祉学関連

- 社会福祉士国家試験受験資格

他の資格※2

- 社会教育主事
- 学芸員
- 司書教諭

※1 他学類の授業を履修することにより、他の教科の免許状も取得可能です。

※2 卒業要件以外の教職科目や博物館学、学校図書館司書教諭講習に相当する科目の単位を修得すれば、教員や学芸員、司書教諭の資格が得られます。

卒業生からのメッセージ

School of Human Sciences
OB・OG Message

内窪 咲月さん

教育学類 (令和5年度卒業)

小学校教員



私が筑波大学を志望した理由は、高校生の時に参加したオープンキャンパスで先輩方の雰囲気に着かれたからです。入学後は、高校生の頃から目指していた教師になるために、教職課程の講義を中心に履修していました。様々な興味関心をもつ学生と関わる中で「教育＝学校」とは限らないと気付くようになりました。それから、自分の疑問や興味にあった講義を、時には他学類の講義まで履修するようになりました。その中でも、特に生涯教育に興味を持ち、卒業研究では学校の外で行われている学習支援について研究をしていました。一方で、「本当に学校の先生になりたいのか。」と悩むこともありましたが、附属小学校やフリースクールでの実習を通して、「子どもと直接関わる仕事がしたい。」という思いを再確認しました。このように、筑波大学は、私の興味や疑問を受け止め、挑戦させてくれる場でした。小学校で働き始めてからは、大変なことも多くありますが、その中でも子どもたちと何気ない会話をしたり、無邪気な子どもたちの様子を見たりしていると、この仕事を選んでよかったと感じています。

筑波大学は、皆さんにも新しい学びの世界を広げてくれると思います。皆さんの大学生活が充実したものになるようお祈りしています。



澤田 知恭さん

心理学類 (令和元年度卒業)

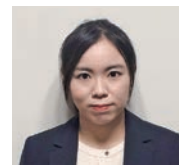
心理学学位プログラム 博士後期課程



私は令和元年度に心理学類を卒業した後、筑波大学大学院心理学学位プログラムに進学しました。現在も同プログラムに所属し、認知心理学の研究を行っています。

多くの先生方が教壇に立っておられる心理学類では、入学当初から興味を持っていた認知心理学以外にも、心理学と名の付く多くの科目や、行動神経科学等について学ぶことができました。さらに、心理学類では、座学だけでなく、論文の読み方、実験あるいは調査の実施、データについての分析、レポートの作成、成果の発表とディスカッション等、研究を行っていく上で必要となるスキルに関する実習も豊富に用意されていました。このように充実した心理学類での学びは、現在、自分が研究を行っていく上で大きく生かされていると感じています。また、直接観察することができない、人の心の捉え方について学んだことは、研究を行う力だけでなく、日常や社会の様々な困難に対処する力も同時に与えてくれたと思います。

心理学類は、皆さんが持っている幅広い興味を受け止め、発展させてくれる素晴らしい環境です。ぜひ、楽しんでください。



黒澤 由子さん

障害科学類 (令和元年度卒業)

法務省



私は学類卒業後、国家公務員総合職として法務省矯正局に入省し、現在、霞が関にある法務省で勤務しています。国家公務員総合職とは、キャリア官僚とも呼ばれ、政策の企画立案をしたり、法案の作成や予算編成など国の行政の中核を担う業務に携わり、中央政府の幹部候補として働きます。法務省矯正局は、犯罪や非行をした人を収容し、再犯防止など国民の安全や安心の実現に取り組んでいます。

入省後の3年間は、少年院と鑑別所で教官として勤務しましたが、そこでは障害科学類での学びが大いに活きたと感じています。子どもの非行の背景には、発達障害や、摂食障害などの精神疾患があることも多く、福祉の支援に繋げる必要があることも多いからです。心理学や教育的観点に加えて、福祉的な観点から目の前の子どもと向き合えることは自身の強みになっています。成人犯罪に関しては福祉のニーズは高く、これまでの罰を与えるという考え方だけでなく、社会復帰後の就労支援など再犯防止が重要だと言われています。

様々な仕事にAIに置き換わり、想像(創造)力や個の人間力、多様性への理解が求められる現代、当事者の生の声を感じながらの障害科学類での学びや障害分野の最新の研究や考え方の理解、多方面で活躍する先生方や素敵な仲間との出会いはきっと将来の大きな財産になるでしょう。



八木橋 彩さん

教育学類 (令和元年度卒業)

文部科学省



私は文部科学省に入省し、現在は教科書課で教科書検定の事務をしています。教科書検定とは、出版社の作成した図書が教科書として子ども達の手に渡っていくために、誤りが書かれていないか等を専門家がチェックしていくものです。昨年度は社会科、今年は道徳科と理科を担当しています。私は高校生のときに「社会をつくるのは人、人をつくるのは教育だな」と漠然とした興味を持ち、教育学類を選びました。教育行政を学びたくて入学したのですが、教育学の様々な授業を受け、行政だけではなく、生涯学習やジェンダー、キャリア教育、特別支援など多くの分野に興味湧き、教育への思い入れが深まりました。そして、日本の教育の根幹に携わりたいという想いから、文部科学省への就職を決めました。教育学の様々な分野への関心が、どんな仕事でも頑張れる今の気持ちに繋がっている気がします。社会人になった今も学ぶことがたくさんあり、日々勉強です。筑波大学に興味がある皆さまには、ぜひこの広大なキャンパスで、のびのび過ごして、めいっぱい勉強して、たくさん遊んでほしいです。空気が澄んでいるし、図書館は大きいし、一人暮らしは成長した気持ちになれます! 学びのある充実した4年間を過ごせますように!



三村 のどかさん

心理学類 (令和元年度卒業)

国立研究開発法人科学技術振興機構



令和元年度に心理学類を卒業し、科学技術振興機構で働いています。現在は研究成果情報サービスやオープンサイエンス支援に関わる仕事をしています。

心理学を勉強した者の進路としては、研究職や心理職を発想しがちかもしれませんが、私のようにそうでない人も多いです。では、心理学類で学んだことは卒業後役に立たないのかというと、そんなことはありません。例えば、心理学統計で学んだ知識は情報サービスの利活用状況の分析や業務改善に役立ちましたし、認知心理学や社会心理学に関する知識は様々な人と業務を進めるに当たって自分を冷静にさせていると感じます。現職に興味を持ったのも、卒論を通して研究活動の一端に触れたことがきっかけです。

私が心理学類に入学した理由は、大きな志があったわけではなく、ただ当時最も興味を惹かれた学問が心理学だった、という漠然としたものでしたが、その結果かけがえのない経験や学び、出会いがあり、時にふがない自分に自己嫌悪したりしつつ、それらを糧にして今があるのだと思います。

筑波は、興味の向くままにいくらでも学び、経験できる環境がある面白くて楽しい場所です。是非めいっぱい楽しんでください。



篤田 直人さん

障害科学類 (令和元年度卒業)

特別支援学校教諭



私は現在、視覚特別支援学校(盲学校)で社会科の教員として働いています。個性的な生徒たちに向き合い、試行錯誤することは大変ですが、面白く、充実した日々です。そのような生活で、大学で学んだ幅広い知識がとても役に立っています。大学の授業では専門分野である視覚障害だけでなく、知的障害や発達障害など、専門領域以外の障害種についても深く学ぶことができます。授業で得た知識は、様々な視点から生徒への指導を考えることに繋がっています。一方、研究室では視覚障害教育の核となる考え方を学ぶことができました。改革が推奨され、変化の激しい学校現場において、自分の中に芯をもって生徒に向き合い続けることができたのは、指導教員の先生が親身な指導をしてくださり、本質的な考え方を伝えてくださったからです。論文執筆や教育相談などの丁寧な指導は、1つの障害領域に複数の教員がいる筑波大学だからこそ、得られたものだと思います。また、5領域の特別支援学校教諭免許状を取得できる大学は全国的にも少なく、それらの大学の中で筑波大学は最大規模の学生を有しています。留学生も多く、部活動も盛んです。障害科学という学問を深く学ぶことはもちろん、多様な価値観や考え方に触れる機会、様々なことに挑戦できる環境が筑波大学にはあります。皆さんが障害科学類に進学し、充実した大学生活を送ることを願っています。



教員紹介

教育学類	College of Education
長田 友紀 国語科教育学 国語科の授業をどうすればより意味あるものに行っているかの研究を行っています。特に、コミュニケーションを重視した授業開発を国内外で進めています。	丹間 康仁 生涯学習・社会教育学 住民と行政や地域と学校の協働をテーマに研究しています。少子高齢化のもとでの学校統廃合や公民館再生の動きに注目しています。
唐木 清志 社会科教育学 社会科教育学、特にその中でも公民教育に焦点を絞り、小学校から高校まで、幅広く研究を進めています。	徳永 智子 教育社会学 複数の文化や言語のはざまを生きている子ども・若者の強みが発揮される教育や社会のあり方を研究しています。
國分 麻里 社会科教育学 日本やアジアの教育を歴史やジェンダーの視点から研究しています。	平井 悠介 教育哲学 教育の公共性論、教育の正義論が研究テーマです。その中で、家庭領域についても深く考えようとしています。
清水 美憲 数学教育学 国際比較を通して、日本の学校数学カリキュラムと授業の優れた点を解明し、海外に向けて発信しています。	平田 諭治 日本教育史 近現代日本の教育と学問の歴史に関心があります。
濱田 博文 学校経営学 学校教育の改善を推進するための組織的要因(校長と教員のリーダーシップや保護者の参加など)に関心を持っています。	蒔苗 直道 数学教育学 数学教育の歴史について、戦後教育改革や数学教育現代化の研究をしています。
樋口 直宏 学習指導学 教師の指導方法、思考力の育成といった教育方法学に関する研究や、小中一貫教育の実践に取り組んでいます。	山本 容子 理科教育学 人間と自然との関わり方について考える環境倫理の視点を取り入れた環境教育、生物教育の研究をしています。
藤井 穂高 教育制度学 専門は教育制度論です。幼児教育から義務教育を経て高等教育まで比較の観点から研究しています。	朝倉 雅史 教師教育学 教職を取り巻く実態と課題、その中で教員はどのように成長・発達していくのかに興味があります。
藤田 晃之 キャリア教育学 専門は初等中等教育段階のキャリア教育の実践及び政策分析です。日・米・デンマーク比較研究を行っています。	遠藤 優介 理科教育学 理科授業を規定する多様な要因に目を向けつつ、理科教育の目的やドイツ科学教育論を中心に研究しています。
上田 孝典 生涯学習・社会教育学 日本の地域社会における教育活動や中国を中心に東アジアの社会教育、生涯学習について研究しています。	太田 知彩 教育社会学 日本人の海外留学について、教育格差やエリート教育、若年層のキャリアなどの観点から研究しています。
金 玆辰 社会科教育学 地理的探究に基づく学習を導入している世界の地理カリキュラムを対象とした比較研究を行っています。	勝田 光 国語科教育学 子供が文学をどう読むか/教師が読むことをどう教えているか、日米で調査しています。国語科の読みの授業を意味あるものにしたいと思っています。
京免 徹雄 特別活動学 学級活動や学校行事などの教科外活動に関心があり、国際比較を通して日本型教育の特質を研究しています。	川上 若奈 道徳教育学 教育における芸術の役割や有用性(無用性)について関心があります。フランス語圏の芸術教育や道徳教育、価値教育を主な研究対象としています。
小松 孝太郎 数学教育学 学校数学における説明・証明、数学教育における課題設計・教材開発やICT活用に関する研究を行っています。	菊地 かおり 比較・国際教育学 教育における芸術の役割や有用性(無用性)について関心があります。フランス語圏の芸術教育や道徳教育、価値教育を主な研究対象としています。
タスタンベコワ・クアニシ 比較・国際教育学 多言語教育政策におけるマイノリティ(少数民族、移民)の母語教育保障を研究しています。フィールドは旧ソ連諸国(ロシア、中央アジア諸国)です。	田中 伶 カリキュラム学 学校内の学習と学校外の生活を接続するカリキュラムについて、ドイツ教授学を基盤にして研究を進めています。
田中正弘 高等教育論 大学教育の質の向上改善に興味があります。内部質保証制度の日英比較などの研究を行っています。	名畑目 真吾 英語科教育学 外国語・英語教育を専門として、英文読解の認知メカニズムや小学校英語について研究しています。
田中 マリア 道徳教育学 本当に全ての人のための道徳教育とは何か、特定の枠組みに固定されぬよう射程を広く置いて探究しています。	古田 雄一 教育政策学 日米の教育政策を研究しています。子どもの声を通じた学校や政策の改善、市民性の育成に関心があります。



心理学類	College of Psychology
浅野 憲一 臨床心理学／認知行動療法／コンパッション うつ病や不安症の患者さんへの心理療法の効果研究(認知行動療法とコンパッション・フォーカスト・セラピー)や、関連する調査に取り組んでいます。	パスクアロット・アキッレ Experimental Psychology, Behavioural Neuroscience Multisensory/visual/auditory/haptic cognition in humans; memory modulation via non-invasive brain stimulation in humans; human spatial cognition.
綾部 早穂 感覚知覚・認知心理学／嗅覚 意識的・無意識的な経験によって情報の認知の仕方がどのように変わるのかについて興味があります。特にニオイの認知メカニズムの研究を行っています。	藤 桂 社会心理学 インターネット上での人々の振舞いや、メディアにまつわる様々な社会問題を研究しています。
安藤 智子 発達臨床心理学 親子や家族の関係性や、感情・アタッチメントに焦点化した心理療法に関する研究・実践をしています。	松田 侑子 発達臨床心理学 労働者、最近では特に保育者や教員のメンタルヘルスやキャリア発達を中心に研究を行っています。
飯田 順子 学校心理学 小中高校での学校心理学・スクールカウンセリングの実践や研究を行っています。学校心理学における海外との比較文化的研究にも、興味を持っています。	水野 雅之 発達臨床心理学／キャリア心理学／心の健康教育 大学生が健康に大学生活を送れるように、自身を大切にするようなセルフケアとメンタルヘルスに関するリテラシーの観点から研究を進めています。
大塚 泰正 臨床心理学 働く人たちのメンタルヘルスをよくしたり、いきいき職業生活が送れたりするようにするための研究と実践を行っています。	山口 一大 計量心理学／教育測定学／ベイズ統計学 形成評価のための学カテストの分析モデルである、認知診断モデル・診断分類モデルの開発・応用を研究しています。
佐藤 有耕 青年心理学 思春期・青年期とはどのような時期なのかを自己、感情、友人関係などからとらえたいと思っています。	安 婷婷 臨床心理学 留学生のメンタルヘルス、援助要請について研究をしています。
杉江 征 臨床心理学 自律訓練法の基礎的・臨床的研究、大学生と学生相談、心理臨床・教育臨床の実践研究などです。	糸井 千尋 感覚知覚心理学／臨床心理学 神経発達症者の聴覚・内受容感覚の特徴に関する研究を行っています。
外山 美樹 教育心理学 教室環境(教師、友人など)が子どもに及ぼす影響や学習の動機づけに興味をもって研究しています。	北原 祐理 臨床心理学 感情を言語化することの治療的な意味に興味があり、最近ではメンタライジングという心の機能に関する研究や臨床実践に取り組んでいます。
濱口 佳和 発達臨床心理学／発達心理学 児童・青年の社会的情報処理、攻撃性、主観性。親の養育スキルと育児ストレスなどについて研究をすすめています。	慶野 遙香 臨床心理学 心理職の倫理的意思決定や職業倫理教育に関心を持って研究を行っています。大学生の相談にも携わっています。
原田 隆之 臨床心理学／犯罪心理学 臨床心理学、なかでも非・犯罪臨床やアディクション臨床が専門です。エビデンス・ベーストをキーワードに、非行少年や犯罪者、アディクション患者に対する有効な治療の開発に関する研究を行っています。	仲田 真理子 神経科学／行動神経内分泌学 マウスをモデルとして、集団の形成をはじめとした情動・社会行動が脳内でどのようにコントロールされているかを研究しています。
藤生 英行 カウンセリング心理学 カウンセリング訓練法、外在化・内在化問題行動に共通するリスク要因・保護要因、症状悪化に関与する認知的脆弱性の3本柱の研究を進めています。	生田 目光 臨床心理学 ポジティブ心理学の観点から、ボディイメージや食行動に関する研究を行っています。
山田 一夫 行動神経科学／行動神経内分泌学 動物を用いて、学習・記憶の脳内メカニズム、特に忘却に関する研究に取り組んでいます。	藤田 和也 心理統計学／ベイズ統計学 心理実験における刺激の選択、収集すべきデータ数の計算について研究しています。
尾野 裕美 産業・組織心理学／キャリア心理学 若年就業者のキャリアに関する研究や、男性の育休に関する研究に取り組んでいます。	前澤 知輝 認知心理学 コンピューターを使って、ヒトの注意や記憶に関する実験をしています。最近では映像を観ている時の認知機能の動きに興味を持っています。
川上 直秋 社会心理学 主に、実験的な手法を用いて、社会的情報(顔など)の無意識的な認知(印象形成など)について研究しています。	松田 壮一郎 行動デザイン／応用行動分析学／発達心理学／自閉スペクトラム症 「行動変容の技術を用いて、人々がより幸せを感じられるように!」を目標にして、人工知能研究者と連携をしながら、最新の行動イメージング技術を用いた研究をしています。
菅原 大地 臨床心理学／感情心理学／ポジティブ心理学 ポジティブ感情の機能に興味があり、最近では精神疾患との関連について研究しています。	豊島 理公 行動神経科学／動物行動学／行動薬理学 経験による情動・社会行動の変容、ラットの孤独感・共感性、統合失調症様ラットの行動特性と脳内機構、カフェインの記憶改善作用に関心があります。
高橋 阿貴 行動神経科学／行動遺伝学 社会行動や情動に関わる生物学的基盤の研究をマウスを用いて行っています。	中澤 佳奈子 臨床心理学 妊娠中から産後にかけての女性やその家族のメンタルヘルスをテーマに、研究(調査や介入)と臨床を行っています。
千島 雄太 教育心理学 時間的展望を大きなテーマとして、人が過去・現在・未来の自己をどのように認識しているかに焦点を当てて研究しています。	矢野 康介 健康心理学／スポーツ心理学／パーソナリティ心理学 パーソナリティの個人差に応じて、健康増進やパフォーマンス発揮のメカニズムがどのように異なるかについて研究しています。

障害科学類	College of Disability Sciences
岡 典子 障害原理論 障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究を行っています。	宮内 久絵 視覚障害学 インクルーシブ教育の在り方について低発症頻度障害・ハイニースとして知られる視覚障害児童生徒に焦点をあてて質的に研究しています。
小淵 千絵 聴覚障害学 聴覚障害児者の聴覚心理学的研究および聞き取り困難(LiD/APD)を抱える方の評価や支援方法の開発に関する研究を行っています。	山中 克夫 老年臨床心理学／高齢者福祉論 老年臨床心理学を専門とし、特に認知症によって生じる心理・社会的問題に取り組んでいます。
柿澤 敏文 視覚障害学 見えない・見えにくい視覚障害のある人々と共に生きる社会の在り方を、科学の視点から探求しています。	和田 恒彦 視覚障害学 理療(鍼、灸、あん摩マッサージ指圧)科教育、スポーツ障害、障害者スポーツに関する研究をおこなっています。
小島 道生 知的・発達・行動障害学 知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウン症児者の発達支援に関する研究を行っています。	徳竹 忠司 視覚障害学 視覚障害者への理療技術指導法・東洋医学的物理療法(理療)の生体反応に関する研究をしています。
佐島 毅 視覚障害学 視覚障害学、重複障害児の心理と教育に関する研究を行なっています。	名川 勝 障害福祉学 障害がある人の地域生活や権利擁護に関心があり、特に知的障害がある人の意思決定支援に取り組んでいます。
竹田 一則 小児科学／障害心理・生理・病理学 病気のこどもの心理・生理・病理・教育や障害者の支援について研究しています。	瀧田 淳 視覚障害学 視覚障害者に対する鍼灸・手技療法の教授法と泌尿生殖器の病気に對する治療法を開発しています。
鄭 仁豪 聴覚障害学 聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究を行っています。	飯村 大智 音声・言語障害学 吃音(きつおん)などの言語コミュニケーションの障害メカニズムと支援法を研究しています。
野呂 文行 知的・発達・行動障害学 自閉スペクトラム症の子どもたちの強みや興味を活かした指導法の研究に取り組んでいます。	石塚 祐香 知的・発達・行動障害学 自閉スペクトラム症の子どもたちに対する早期発達支援(特にコミュニケーションや相互作用)に関する研究を行っています。
宮本 昌子 音声・言語障害学 吃音と早口言語障害について、適切な評価・支援法を開発するための研究を行っています。	大村 美保 障害福祉学 障害者の雇用・就労・所得保障、および地域生活支援に関する研究をしています。
八重田 淳 障害福祉学 職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究を行っています。	河野 禎之 障害福祉学 認知症やLGBTQ+を中心に、ダイバーシティ&インクルージョンをテーマとした研究に取り組んでいます。
山田 実 運動・健康・高齢障害学 加齢に伴う身体機能低下の予防(介護予防)に関する研究を行っています。	工藤 滋 視覚障害学 視覚障害者のあん摩マッサージ指圧、鍼灸の職業課程における学習教材、触察指導について研究しています。
米田 宏樹 知的・発達・行動障害学 知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究を行っています。	三盃 亜美 音声・言語障害学 読み書きや言語発達の障害について研究しています。LDや多言語使用の子どもの支援をしています。
魚野 翔太 知的・発達・行動障害学 神経発達症児・者の社会的コミュニケーションの特徴に関する実験心理学的研究を行っています。	林 小百合 知的・発達・行動障害学 発達障害児・者の実行機能や認知的な特徴について、実験心理学的研究を行っています。
岡崎 慎治 知的・発達・行動障害学 知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究を行っています。	藤本 啓寛 社会福祉学／障害福祉学 学校において福祉に関する支援に従事するスクールソーシャルワーカーについて、質問紙調査や聞き取り調査を用いて社会的な視点で研究しています。
佐々木 銀河 知的・発達・行動障害学 青年期・成人期の発達障害者支援やテクノロジーを活用した障害のある方の支援方法を研究しています。	森地 徹 障害福祉学 障害のある人が自分で自分の人生を切り開いていくために必要となることについて研究しています。
左藤 敦子 聴覚障害学 聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究を行っています。	王 青童 運動・健康障害学 重度・重複障害のある子どもに対する訪問教育や特別な教育的ニーズのある外国人児童に関する研究を行っています。
丹治 敬之 知的・発達・行動障害学 子どもの読み書き発達の研究、発達障害児の読み書き支援、主体的・自律的な学習方法支援、ICT活用支援に関する研究に取り組んでいます。	

入試情報・オープンキャンパス

受験生へのメッセージ

人間学群の入学定員は120人(教育学類35人、心理学類50人、障害科学類35人)です。ただし、このうち11人は総合選抜で募集して、2年次に各学類で受け入れます(教育学類3人、心理学類5人、障害科学類3人)。

人間学群で実施する入学試験には、「一般選抜(前期日程、後期日程)」「学校推薦型選抜」「グローバル選抜(国際バカロレア特別入試、外国学校経験者特別入試)」があります。その概要は以下の通りですが、募集人員や試験科目等の内容は変更されることがあるので、各年度の学生募集要項や大学ホームページを参照して、常に最新の情報を入手して下さい。

一般選抜

●実施時期

大学入学共通テスト：1月

個別学力検査：前期日程 2月、後期日程 3月

●個別学力検査の試験科目

前期日程：外国語(必修)、および国語、地理歴史、公民、数学、理科から1教科選択

後期日程：論述(応答性、論理性等を評価する)

学校推薦型選抜

●実施時期：11月

●選抜方法：小論文、面接

グローバル選抜

(国際バカロレア特別入試、外国学校経験者特別入試)

(1)国際バカロレア特別入試(2回募集)

●実施時期：(7月募集)7-8月、(10月募集)10-11月

●選抜方法(各回共通)：第1次選考 書類

第2次選考 小論文、面接

(2)外国学校経験者特別入試

●実施時期：11月、2月

●選抜方法：小論文、面接

また、毎年8月には筑波大学オープンキャンパスが開催されます。人間学群でも学群・学類の説明、各学類の教員による模擬授業、教員や学生による個別相談、キャンパスツアーなど、多彩なイベントが終日にわたり行われ、全国から多数の高校生・保護者で賑わいます。教員や学生と直接会うことのできる貴重な機会ですので、ぜひ参加して下さい。このほかにも、大学や学類独自に説明会やイベントを開催することがあります。



オープンキャンパスの様子



施設紹介



中央図書館

筑波大学には、中央、体育・芸術、医学、図書館情報学、大塚の5つの図書館があります。中でも最も大きい図書館で皆さんが学ぶ教室からも近いのが中央図書館になります。平日はもちろんのこと、土・日曜日及び祝休日も開館し、みなさんの学びを支えています。



第2エリア大食堂

「二食」と呼ばれ、豊富で栄養バランスが考えられたメニューが筑波大生に愛されています。座席数も350あり、新歓イベントやパーティの会場に使われたりすることもあります。日替わり弁当も販売されており、こちらも人気です。



附属学校・東京キャンパス

筑波大学には11の附属学校があります(うち5つは特別支援学校)。人間学群では附属学校と連携して見学や授業参観、ボランティアの機会を設けており、こうした活動を通して教育や障害児教育について理解を深めることができます。



実験心理学研究室

神経科学の研究室では、心の基盤である脳の機能に、生物学的な面からアプローチしています。記憶や情動、攻撃行動などの社会行動が、脳の中でどのように表現されているのかを覗いてみませんか？



授業実習室

学校の教室をイメージして、この部屋は作られました。現在、小学校教員免許に係る講義を中心に活用されています。この教室で、学生は授業づくりを行ったり、模擬授業を行ったりと「授業」を研究する貴重な場になっています。



障害学生支援・準備室

筑波大学には障害を有する学生も多く学んでおり、人間系学系棟には視覚障害、聴覚障害、運動障害を有する学生のための部屋(支援・準備室)が設置されています。障害学生支援・準備室には点字プリンターなど、支援機器も充実しています。

Q & A

Q 授業時間と授業の規模について教えてください。

A 授業は第1時限(8:40～9:55)から第6時限(16:45～18:00)にわたって行われ、学生は其中で開設されている授業の中から、各自の必要要件に従って、選択履修することになります。授業のクラスは、350人を収容する大教室での講義から、数名の出席者によるゼミ形式の授業まで、その目的や内容に応じてさまざまな形態がとられています。

Q 他学群、他学類の授業は、どのくらい受講できますか？

A 筑波大学では、隣接する分野や関連する分野にまたがって幅広く、総合的に履修できるように教育課程を編成しています。したがって、他の学群や学類の授業を、自分が所属する学類の開設授業と重なっていない曜日時限には比較的自由に受講することができます。1、2年次に受講する総合科目、あるいは関連科目(自由科目)などです。ただし、1年間に履修申請できる総単位数は原則として45単位までに制限されていますので、その範囲内で履修しなければなりません。また、実験実習の多くや一部の演習など、受講生の制限が設けられている科目もあり、全ての科目を自由に受講できるわけではありません。

Q 留学をしたいのですが、留年せずに留学することはカリキュラム上、可能ですか？

A 海外留学は幅広い視野から物事を考える習慣を身につける上で、貴重な経験です。協定を結んでいる大学に交換留学で留学することで、留学期間も筑波大学の在籍期間とみなされるほか、留学先で取得した単位の一部が本学の単位として認めら

れるため、4年間で卒業することが可能です。ただし、教員免許状等の取得を目指す場合には、実習等との兼ね合いから4年間で卒業は難しい場合もあります。また、交換留学には1年程度の準備期間が必要となりますので、入学後に早めの情報収集をはじめることをお勧めします。

Q 学生宿舎やアパートなどについて教えてください。

A 筑波大学には、大学構内に計67棟(約3,800室)の学生宿舎が設置されています。国際交流を重視したシェアハウスタイプの学生宿舎(グローバルヴィレッジ)もあります。学群の新入生は優先的に入居できるように配慮されており、1年生の多くは宿舎に入っています。詳しくは以下のHPをご覧ください。
<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-healthlife/>

Q 留学生はどれくらいいますか？

A 現在、筑波大学では2000人以上の留学生が学んでいます。大学では日本人と留学生が日常的に国際交流を行えるようイベントや交流スペースもたくさん用意されています。

Q 筑波大学では、障害のある学生についての支援はどのようにされていますか？

A 筑波大学は、障害のある学生を積極的に支援しています。詳しくは本学アクセシビリティ(ヒューマンエンパワーメント推進局)のHPをご覧ください。
<https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>